



『食べて覚える、30種から』

通年コース第二・三回開催報告、樹木分類、伐木造材

キーを覚えて検索をする、
というのは樹木分類の王道
ですが、街路樹になったり庭
木にしたりという馴染みの
あるものは別にして、利用と
いう点からしてみると、昔ほ
ど樹木は私たちに近い存在
ではなくなっています。木



鳥か、ジェット機か、スーパーマンか。いえ樹木分類です

材を器具や道具に使うこと
も少なくなりまして、学校
帰りにグミや桑の実食べた
りすることも、伊那界わい
もあまり聞くことはなくな
りました。
食べられるかどうか、とい
うことも検索のキーになり
ますし、おい



ちゃんと目的地にたどり着けるかな

しかなかったらきつとすぐに
えられることでしょう。資料
でお配りした『上伊那地方に
分布する樹木台帳』の中でこ
れらを見つけてみましょう。
まずは生食できる実。アケ
ビ、サルナシ、ヤマゲワ以外
にもモミジイチゴやクマイ
チゴ、エビガライチゴの木
類、コウソウやガマズミ、カ
マツカ、ヤマウグイスカグラ
など。秋に熟すナツハゼの
実は、蕪の漬物の色付けに使
うと薄い赤紫の食欲をそそ
る無漬けに。とても酸っぱい



ちょうど良い気候の鳩吹公園にて、検索中

マツブサの実にはワインに加
工されていますし、意外なと
ころではクマヤナギの実が
食べられるそうです。
イチイの果肉は食べられ
ますが中の種は有毒なため
要注意です。エノキやケン
ボナシの実は昔は子供のおや
つがわりだったとか。
クリやクルミのほかに、少
し手を加えて食べる実には
アーモンドのようなカヤ
の実、日本産ヘーゼルナッツ
はツノハシバミ、ノイバラの
実を夏の終わりに採って乾
燥させ、自家製のローズヒツ
プを作ってハーブティーに。
同じバラ科のクサボケの実
は、熟す少し前に収穫し、果
実酒にすればとてもよい香
りの疲労回復用民間薬です。

ついでにネズミサ
シの果実酒は和製
ジン、炭酸で割つ
てカクテルにして、
と色々夢は膨らみ
ます。
リレー通信の金
児さんも紹介して
くれています。樹
木の若芽も食べ
られるものは多
くあります。お勤
めはおひたしに
してもおいしい
三つ出複葉のミツ
バウツギ、イワガ
ラミはほんのりキ
ュウリの風味が
します。ウコギの
仲間のハリギリは
癖が無い代わりに
味も無い。なん
だか臭いクサギ
もゆでてしまえば
臭い



梢がどこを抜けていくかを想定する

はなくなりません。イントラ
園田のお勧めはニワトコのお
ひたしでしたね。
天ぷらにすればモミジ、
カエデ類のほか、かなりの
若葉が食べられますが、穴
狙いではマユミやニシキギ
があり、リョウブやコアシ
サイは知る人ぞ知ります。
ニセアカシアの花の天ぷら
は隠れファンも多いとか。
口にしたら実や葉や花は、
舌や胃袋がきつと覚えてく
れていて、次に山で見つけ
たら思わず微笑んでしま
うに違いありません。
さて、二日目は終日雨の
中の伐木造材でした。午前
中は小雨だったのですが午
後は本降りに。今年の塾生
はとも我慢強くて誰もや
めようよ、とは言いません。



まずは玉切りから始めます

これがスチール、こっちはハスク、ともに名機

受け口は慎重に、丁寧に
伐倒に特化した専門コースの、今年の初めての開催です。現場はKOA社有林。

次回以降の予定

古畑

早川、園田、川島

講師、スタッフノ

屋さん

村さん、原さん、守

さん、中川さん、中

さん、金児さん、滝川

さん、井澤さん

参加者ノ

材

樹木分類・伐木造

(金・土)

5月10・11日

2・3回

通年コース第

2・3回

もかくにもお疲れ

様でした。

ことにして、とい

うときは7月の間伐

のときに、という

なかつたチェーン

ソーの手入れ、目

立って

しつかり実践を

やったのでした。

ひよつとして酷か

な、と思いつつ予

伐倒に特化した専門コースの、今年の初めての開催です。現場はKOA社有林。

第1回開催

5月24・25日

(金・土)

専門コース

第1回開催

鳥崎先生を講師にお迎え

して間伐の実践となります。

保残木マーク方や列状間

伐など間伐の体系を伝授し

ていただきます。チェーン

ソーのメンテナンスもやり

ます。現場は未定ですのでま

たご連絡いたします。

マイチェーンソー、ナタノ

コ等の道具類お持ちの方は

ご持参ください

間伐材で椅子作りに挑戦。

第6・7回

7月13・14日(土・日)

鳥崎先生を講師にお迎え

して間伐の実践となります。

保残木マーク方や列状間

伐など間伐の体系を伝授し

ていただきます。チェーン

ソーのメンテナンスもやり

ます。現場は未定ですのでま

たご連絡いたします。

マイチェーンソー、ナタノ

コ等の道具類お持ちの方は

間伐材で椅子作りに挑戦。

第6・7回

7月13・14日(土・日)

鳥崎先生を講師にお迎え

して間伐の実践となります。

保残木マーク方や列状間

伐など間伐の体系を伝授し

ていただきます。チェーン

ソーのメンテナンスもやり

ます。現場は未定ですのでま

たご連絡いたします。

マイチェーンソー、ナタノ

コ等の道具類お持ちの方は

ご持参ください

間伐材で椅子作りに挑戦。

第6・7回

7月13・14日(土・日)

鳥崎先生を講師にお迎え

して間伐の実践となります。

保残木マーク方や列状間

伐など間伐の体系を伝授し

ていただきます。チェーン

ソーのメンテナンスもやり

ます。現場は未定ですのでま

たご連絡いたします。

マイチェーンソー、ナタノ

コ等の道具類お持ちの方は

ご持参ください

間伐材で椅子作りに挑戦。

第6・7回



「申し訳ないが、いまバタ

バタしているの、(地元林

業グループの会計報告作成

中でした)ひと月遅らせて

ください」とお願いした。そ

して「では、一ヶ月遅らして

月お願いします。締め切

りは 月 日で」と返事を

いただいた。一ヶ月延期の

了承を得たら、すっかり安

心して、一ヶ月忘れていた。

結局今、バタバタしている。

さて、何をしよう…。いつそ

全ての文末に「…」を入れよ

うか。(汗)。

そうそう！早川氏と言え

ば、カヌーをされるらしい。

私もカヌーが趣味なのだ。

もう、3年ほど遠のいてい

るが、没頭していたころは

年間80日川に行っていたと

いう年もある。

「申し訳ないが、いまバタ

バタしているの、(地元林

業グループの会計報告作成

中でした)ひと月遅らせて

ください」とお願いした。そ

して「では、一ヶ月遅らして

月お願いします。締め切

たい。その冷たさゆえ(と、

教えてもらった)、本格的な

夏の盛りにはアブが出て、カ

ヌーなど漕げたものじゃな

い。だから凍えない程度に暑

くなつた初夏のほんの一時

期しか漕げない、とっておき

の川なのだ。

今、私は岐阜県美濃市に住

んでいる、長良川の流れる地

域だ。若いころから念願だっ

た田舎暮らしを4年前に始

めた。美濃市に移ってまた

ま八ローワークで見つけた

仕事だ。なんと、あの神崎川

の流れる地域の活性化の仕

事だ。神崎川の上流は、限界

地域だった。その地域は以前

林業で賑わった地域だった。

山は急峻で、川と山の間わか

ずかな隙間に人が住んでい

る。なんとか畑はあるが、田

んぼはない。畑も山肌へば

りつきながら作業をする。そ

んな苦労をして育てた作物

を、猿や猪がいただいでゆ

る。

「申し訳ないが、いまバタ

バタしているの、(地元林

業グループの会計報告作成

OB・OG
からの便り

「早川氏の歌のルーツは
何であろう...」

f m 平井和子さん

く。そんな集落に、毎日山へ出かけて山の手入れをしてる人がいた。この後どうなるかわからないけど、「次の世代に渡せるように」と、木を間引き、その間に植林をしていた。その植林をした苗木が2年で全滅してしまっただ。全て鹿に食べられたのだ。毎日のチェーンソー作業がひびき、肘の骨の手術を受けた時、その人は息子に怒られた

「島崎先生が『みどりの文化省』受賞

緑の文化省とは、国土緑化機構が国民の祝日『みどりの日』が制定される事を記念し、『緑と水の森林ファンド』による事業として平成2年から緑や森林に関して功績のあった個人または団体を顕彰し、創設したもの。

先生は信州大学の教官として現場で仕事ができる多数の人材を育てた後、退官後もKOA森林塾などで山守の育成と、分かり安い森林管理法を世に広

め、矢作川水系森林ボランティア協議会の実践する「森の健康診断」でも島崎方式の調査、診断方法を指導した功績を認められたものです。

今までに宮大工の西岡常一氏(故人)や庭師であり桜守の16代佐野藤右衛門氏、環境評論家の富山和子氏、団体では財団法人イヌカ、草刈り十字軍、えりも岬の緑を守る会などが受賞しています。選考委員には作家の倉本總氏や登山家の田部井淳子氏も名を連ねています。式典は5月11日(土)日比谷公園にて行われ、先生は名誉総裁、秋篠宮殿下からのお言葉を賜りました。



そつだ。「山なんか残してもらっても迷惑だ。」ももちろん親のことを思っている言葉である。丁度その時期私はその方に、山仕事のボランティア団体を紹介しており、肘が回復するまででも手伝って頂いてはどうかと話をしていたところだった。そんな事もあり、せっかく紹介してもらったボランティアを断ると電話をいただいた。息子に叱られて...と、話してくれ

た時、その人は泣いている様子だった。山に入ると食事を忘れるほど山仕事が好きで、手入れの行き届いた山を見るのが大好きな人でした。神崎川で遊んでいたころ、きれいな水の川の上流の山は当然きれいなんだらうと、なんの疑いもなく思っていた。しかし、実際はまったく違っていた。おどろおどろしい程に荒れており、山を深く入ると、消滅した集落がいくつもあつた。こんなところにも家がある。どうも反対(福井県)側の山から移り住んだ人達らしい。こんな山深いところはどう暮らしていたのだらう?想像を巡らすと、その逞しさに圧倒される。会えるものなら会ってみたいとさえ思つた。地元の人達は「山がだめになつたからこの地域は今更どうすることもできない。時間と共に消えてゆくだけ」と言う。地元の人が望んでいないのに、よそ者が来て『活性化』などと、ひつかり回すのはかえつて迷惑なのでは?そんなことをよく考えていた。でも、私自身は、山の暮らしが消えるのが嫌だつた。山がお荷物になつてきているのも嫌だつた。荒れている山を増やしたくないとも思つた。いつの間にか山のことが頭から離れなくなつてしまつていた。どうしたら、山が元気になるのだらう...。道を作つて大型機械をいれて、経費を削減して山へ還元する、という考えもあるよつだが、私にはピンと来ない。もちろんそれを否定する訳ではない。それはそれで適した条件の山もあると思つた。そこでやつていただければいい。しかし、私が見てきた山や集落や家族が元気になる為に必要なのは、もつと些細な事なのだ。山仕事について、殆どの人が「山は危険」「山仕事は難しい」と言う。しかし、昔はだれでも地域や個人で山を持つており自分たちで手入れした。山の手入れはもつと身近なものなのだ。ただ、昔の人に比べ、便利な生活に慣れ体や感覚が鈍つてしまつた現代人には、それをフォローする知識や危険への理解が必要なのである。KOA森林塾はそのことを教えてくれる塾なんだと思つた。

参加したKOAには、全国から「それが学びたかつたのだ」と求めて集まる、熱い人たちがいた。他の参加者がどういつた経緯でKOAにたどり着いたのか、それを聞くだけでも楽しい。編注：平井さんは昨夏夏の集中コースにご参加

リレー通信 毎日が初めての今日



金児 正

2000字もの文章をいきなり森林塾通信に書いてねと、師匠の早川氏からの言葉、いやー困りましたなあ。そんな長ネタ無いし仕方ない、4月の森林塾で使ったネタをもう一度使いますわあ。小さい頃から右に行けと言われると左へ、やるなど言われるとやつてみたくなる、へそ曲がりマイペース、好きな事はやるけど、嫌いな事はまったくしない生き方をして来ました。そんなもんですから仕事も人生も七転び八転びでなもんで、転がりまわつて現在50歳にして住所不定、無職、変なおじさんになつてしまいました。仕事がないのは良しとしても、住まいが無いのは辛いので、人の減少している村なら、家から減らして貸して欲しい。ただ同然で貸してくれないのではいかという甘い考えと、高い山が見えたらいいなあという単純な思いから、長野県の村々のホームペ

ジなどで移住情報を見ていましたら、「オー、あつたあつた、ありました。東筑摩郡生坂村、山、田、畑付き築150年の古民家、しかも水は山水。これは良いと現地も見ずに移住したのがついこの間の12月の事。田舎暮らしという定年退職して年金で悠々、ゆつたり暮らす、というイメージであります。冬のご生坂村はサバイバル。まずこの家は窓が無く、障子戸を挟んで向こうはいきなり外なであります。明け方はマイナス15度にもなり、鍋の水は凍り付き、布団の息が掛かる所は霜になり、そんなもんだから、連れとよく冬山遭難ごつこをして、「おい、寝るんじゃない、生きてるか」って具合でした。そんな寒さに耐える日々も4月になり春を迎えたのでした。おーそんな事で感動してしまつて自分でありませう。春はまさに爆発という感じがすね。寝ていた物?者?がいっぱんに起きて動き出す感じ。柔らかい芽吹きが始まつたと思つたらあれよあれよと山肌が緑で覆われていきま

す。我が田畑も同様に緑で一杯、なんてのん気にしていら大変な事になるのでは。次から次に花は咲き、ミツバチは飛び、アリの動き回り、冬鳥は去り、ツバメなん



ぞが飛んじやって、川には産卵の鯉たちが群れております。道路にも車によりお亡くなりになった毛虫くんやカエルくん、はたまたタヌキくん、それをつつきに来たトンビくんなども道路に寝ておられる時があり、生坂動物村というところでしょうか。

山菜のたぐいも出てきますよ。我が貧乏生活者にとつてはもう涙が出るくらい助かる事です。ハコベ、セリ、ナスナ、スイバ、タンポポ、ヨモギ、カラスノエンドウ、カンゾウ、ツクシ、コゴミ、フキ、イタドリ、ハナイカダ、ヨメナ、ギボウシ、ウド、ワサビ、タラの芽、コシアブラなどなど、もう八百屋いらんというくらい、毎日が山菜であります。

また春は外仕事がいきなり増えるのでびっくりであります。村の役、付き合

田畑の草刈り、種まき、苗作り、代掻き、庭木の剪定、薪舎ののんびりしているなんて言ったのは。超忙しい。なんとたつてピカピカの一年生、素人さんのやることですから人の3倍かかります。とても追いつかないのです。これには日頃、『今日出来る事は、明日やる会』の会長である私もあせりを感じない訳にはいきません。

さらに追い打ちを、次々と声の掛かる「お茶飲んでいきまっしょ」のお誘い。これでは「昨日できた事も今日もやりません」の会になってしまいかもしれません。「いつ代掻くのだあ!!」という問い掛けに「ポチポチやりますわあ」と冷や汗たらりりて答えまくる私、いつしか村の中で「金児さんはポチポチさんだね」と呼ばれる様になったとき。さてさてやっとなら1600文字に近づいてまいりました。ここからは私が森林塾に行く事になったきつかけの話です。

生坂の山付きの古民家に住む様になって、ガスが無いのでロケットストーブを作つて、調理に薪火を導入してみると、炎つて美しく楽しい。毎日火をつけるのは楽しくなり、来冬のために薪ストーブと囲炉裏を作ろうと思つています。薪作りとシイタケのホダ木作りで3月に初めてチェーンソーを持つて山の木を切つてみましたら、木は思つ様に倒れませんが、挙句の果て、バーを木に挟んで曲げてしまい、散々な目に会いました。

これは誰かに教えてもらわんといかんと近くの林家、原薫さんをお願いしてみたらと、このKOA森林塾を教えてもらったという訳です。まだ2回目ですが、この塾は素晴らしいと感じます。最後まで自分たちにやらせてくれる教え方は、忍耐があると思ひます。この一年お世話になります。よろしくお願ひしますね。

生坂での生活も山の事も一年目でいろんな事を勉強できる今に感謝して...5月の私通信でした。

コラム

“日本林業の行方”



その① プロローグ

1945年9月、私は大東亜戦争の敗戦に伴つて復員兵の一人として、再び見えることは無いものと出征していった故郷の駅頭にひつそりと降りた。想い起こすと薄墨で画いた広大な風景を眺めているように、頭の中はしんとして空白なひと時であった。生きて帰らぬなどといった悲壮感や、これからどうしようなどといった切迫感はずっと失せ、しばし別れていた親兄弟や近隣の皆さんに再会できる喜びに立ち戻つて家路を急いだ。

曰く、「地元には農林専門学校があるよ、一緒に受験しようよ。」と勧められた。「えっ...」と言つたまましばらくは二の句が継げなかつた。彼は恵まれた家庭の一人息子で、屈託の無い小学校以来の親友である。私は6人兄弟の長男、親父は50歳過ぎの元職業軍人(海軍)で敗戦失業中、進学など全く思いもよらない事柄だつた。

また、われわれ同期生が旧制中学に入学した1941年は、日中全面戦争の真つ只中であり、その年の12月には大東亜戦争の勃発も伴い、銃後の軍事訓練や農事勤勞奉仕への動員に追われ、2年生になると陸軍の伊那飛行場建設のための土木作業に、引き続き3年生の半ば以降は航空機部品製造のための軍需工場への学徒動員に駆られ、その挙句には5年制の就学期間を1年繰り上げ、1945年3月には否応なしに旧制中学卒業生ということになつてしまつた。唯一の4卒生の誕生である。

よ、中学の勉強、さっぱりしてないじゃん。入れる訳無いよ。」「そんなこと無いよ、受験生のほとんどは皆同じだよ、中学時代勉強出来なかつた分、一緒にやろうよ、願書、君の分も貰つてきたよ。」

即座には決心できなかつたが、彼の友情は本当に嬉しかった。家族との相談もあるとして、後日を約して別れた。

一人でそつと見開いた願書は、紙質はあまりにも粗末であつたが、あのほのかなインクの香りは今も忘れない。

おわりに

島崎 洋路

雨中の伐木造材お疲れ様でした。次回の森林調査やその次の間伐は晴れて欲しいですね。五月晴の伊那合は実に気持ちの良い所です。

11日以降は逆に雨が少なく、植えた苗が大きくならず、時いた種がなかなか芽を出しません。畑にだけは一雨欲しいところです。

今から68年も前の記念すべき一日の思い出である。いったん命を国に捧げることを、良しとした生き方を、全方位、自由にギアチェンジすることの難しさに戸惑いながらの数ヶ月は、戦時中から引き続いた極度の食糧難への対応に追われ、将来の生き方などに考えを及ぼす余裕は無かつた。

その年の暮れ近く、同級のM君が訪ねて来ていきなり

「Mくん、そりゃあ無理だ練。」

その上、私は1943年の11月からの数ヶ月と1945年3月から終戦後まで海軍の志願兵として兵役に服していた。(前者が海軍飛行予科訓練生、予科練、後者は海軍特別幹部訓練生、特幹練)。

投稿大歓迎。ご意見ご質問は事務局までお知らせください。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: mi-matsuoka@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062 (開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

